

国際博物館の日記念

企画展「暁斎 その交流さまざま」展



河鍋暁斎記念美術館

会期：2017年5月1日（月）～6月25日（日）

開館時間：10時～16時 [休館日：毎週木曜、5月26日～31日]

入館料：一般320円、中～大学生210円、小学生以下105円、団体要予約（20名以上）

河鍋暁斎記念美術館の
HPへはこちらから↑

暁斎は、当時の画家や版元といった関係者だけでなく、明治政府とも関わりのあった松浦武四郎や山岡鉄舟とも親しく、勝海舟からの依頼もあったようですし、剣豪の榊原鍵吉も友人でした。また、弟子に英国人建築家ジョサイア・コンドルがいたことはよく知られていますが、後に三宅雪嶺の妻となる田辺辰子（幕府の外交官・田辺太一の娘）も門人でした。そして暁斎は、当時来日した外国人たち（エミール・ギメやフェリックス・レガメ、エルヴィン・ベルツほか）とも広く交流していたのです。

本展では、暁斎が、知人の為に描いた絵、合筆した作品、弟子自身が描いた絵、そして暁斎について記された著述を展示し、暁斎の交流の広さを知っていただく内容になっております。

「松に鍾馗図」 暁斎・瀧和亭合筆

絹本着色 軸装

上部の松は、皇室技芸員も務めた幕末・明治を代表する画家・瀧和亭（たき・かてい、1830-1901）が描き、その下に暁斎が鍾馗と鬼を描いた合筆です。鍾馗は、中国唐の玄宗皇帝の夢に現れた鬼を退治したことから、その絵姿が魔除けとして描かれるようになりました。日本では魔除けのほか、子どもの疱瘡除けとして端午の節句（5月5日）に飾る風習があります。鍾馗は暁斎も得意とした画題ですので、何作品も描いています。



第一中学校けやき学級（特別支援学級）

今年度のけやき学級は、3年生が5人、2年生が4人の合計9人となりました。クラスは、2クラスです。1年生はいませんが、他校から転校してきた生徒さんを、サポートする様子が大変ほほえましいスタートとなっています。

3年生は、最高学年として、後輩たちの立派なお手本になってくれています。何かあればすぐに声をかけているので、注意して見てくれていることがよく分かります。各学年、進級することによって、さらに自ら進んで行動することが増え、たった1ヶ月の中にも大きな成長を感じます。

授業では、たくさんのお話を学習しています。毎日、数学に取り組み、個に応じた目標を克服しています。国語では、漢字学習に

も重点を置き、漢字検定の賞状がたくさん掲示されています。社会では、地図が読めるようになり、理科は、顕微鏡を使った学習をしています。英語は、ALTの先生と英会話やゲームをしています。体育では、ランニングコースを走ったり、柔道にも取り組んでいます。音楽では、大きな声で校歌を歌ったり、和太鼓を使って体いっぱい自分を表現しています。技術・家庭科、美術、生活、作業では、作品づくりや将来自立した生活ができるためのALTの先生と英会話やゲームをしたり基礎となる学習をして、毎日とても充実しています。

昨年度よりもさらに成長した姿が見られることをこの一年間、期待しています。